吉川

正文君

こを吾が逍遥の小径となす。岩の山脈を吾が宿舎の青垣 の青垣となし

でよ、

る蛮声に、吹雪鎮むる高吟に青春の意気託しなんばはまい、 ないくいほんほん とも、吾等が野望尽くる一つ あまりに青く、輝く雪原あまりに白し。 輝く雪原あまりに白し。

静じさ 寂まれ

をなるよ

ďσ

美いの 一命な 結ず

の憂愁よぎりぬ

吹ふ 分ば

天*星は蝦ぇ 翔か辰し夷ぞ 入を四 Ũ 人よ今こ え

若が吹 ける とは なさん 風ぜの をつぶて を

影げ

を

る の 巨ゕ夢ゕ

忘ţス れト 舌を睦っ 苦がみき 来き五 この 燗ラ得ぇー 悵ぁじ ム き来地で Δ 誰だ果はに 洒け親と 身みに 7 友も ú らん